

## 国立民族学博物館研究報告 vol.13-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	13
号	4
発行年	1989-03-29
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009214">http://hdl.handle.net/10502/00009214</a>

1988—13<sub>卷</sub>4<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告



夸父と造父

——構造分析の試み——大林太良

韓国祖先祭祀の変化

——都市アパート団地居住者を中心に——朝倉敏夫

濟州島における歌の形成

——音から音楽へ——櫻井哲男

子の監護と婚資返却

——グシイにおける離婚訴訟の分析——松園万亀雄

「水の精霊」とイスラム

——ボゾ族における社会変化と宗教変化——竹沢尚一郎

Preliminary Remarks on the Phonological Implications of Word Play in  
Modern Shanghai——Michael L. Sherard



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

13 卷 4 号

1988 年

## 目 次

夸父と造父 ——構造分析の試み——	大林太良	727
韓国祖先祭祀の変化 ——都市アパート団地居住者を中心に——	朝倉敏夫	741
濟州島における歌の形成 ——音から音楽へ——	櫻井哲男	787
子の監護と婚資返却 ——グシイにおける離婚訴訟の分析——	松園万亀雄	807
「水の精霊」とイスラム ——ボゾ族における社会変化と宗教変化——	竹沢尚一郎	857
Preliminary Remarks on the Phonological Implications of Word Play in Modern Shanghai		
	Michael L. Sherard	897
彙 報		925
国立民族学博物館研究報告 13 卷 総目次		934
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		935
国立民族学博物館研究報告執筆要領		936

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 13 No. 4

1988

---

- OBAYASHI, Taryo      Kuafu and Zaofu: Essay in the Structural Analysis  
of Ancient Chinese Myths ..... 727
- ASAKURA, Toshio      Changes in Korean Ancestor Rites: A Social  
Survey of the Middle Class in City Apartments ... 741
- SAKURAI, Tetsuo      Formation of Songs in Cheju Island: From Sound  
to Music ..... 787
- MATSUZONO, Makio      Custody of Children and Bridewealth Repayment:  
An Analysis of Gusii Divorce Cases ..... 807
- TAKEZAWA, Shouichiro      *Jii tu* and Islam: Socioeconomic and Religious  
Changes among the Bozo ..... 857
- SHERARD, Michael L.      Preliminary Remarks on the Phonological Impli-  
cations of Word Play in Modern Shanghai ..... 897

# 彙報

(昭和63年10月～  
昭和63年12月)

## 人事異動

(教育職) (昇任)  
10月1日 第三研究部教授 和田 正平  
(第三研究部助教)

## シンポジウム

◎「ユネスコ・シルクロード総合研究」日本  
セミナー「人類文明史におけるシルクロ  
ードの意義」

期間 昭和63年10月24日(月)～26日(水)  
場所 国立民族学博物館(講堂)  
主催 国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)  
国立民族学博物館  
社団法人日本ユネスコ協会連盟  
後援 文部省・外務省  
摘要 この国際セミナーは、現代における  
「シルクロード」の意義を再確認する  
とともに、東西の文明の交流に関する  
諸問題を、単に一国、一地域の問題と  
してではなく巨視的な見地から検討し、  
今後の学際的研究在り方を模索してゆ  
こうとするものである。

## 顧問

藤枝 晃 京大名誉教授  
江上 波夫 京大名誉教授(財団法  
人野外民族博物館・リトル  
ワールド館長)  
山本 達郎 京大名誉教授  
榎 一雄 京大名誉教授(財団法  
人東洋文庫理事長)  
井上 靖 作家  
羽田 明 京大名誉教授

## 組織委員会

委員長  
梅棹 忠夫 国立民族学博物館長  
委員  
阿部 弘 宮内庁正倉院事務所長  
加藤 九祚 国立民族学博物館名誉教授  
坪井 清足 大阪文化財センター理事長  
長澤 和俊 早稲田大学教授  
西川 杏太郎 奈良国立博物館長  
樋口 隆康 泉屋博古館館長  
増田 精一 東京家政学院大学教授  
護 雅夫 日本大学教授  
佐々木高明 国立民族学博物館教授  
藤井 知昭 国立民族学博物館教授  
杉村 棟 国立民族学博物館教授  
和田 浩司 国立民族学博物館管理部長  
服部 英二 ユネスコ・シルクロード総

合研究計画事務局長

尾花 珠樹 (社)日本ユネスコ協会連盟  
事務局長

## 実行委員会

委員長  
杉村 棟 国立民族学博物館教授  
委員  
松原 正毅 国立民族学博物館助教授  
吉田 集而 国立民族学博物館助教授  
永ノ尾信悟 国立民族学博物館助教授  
杉島 敬志 国立民族学博物館助手  
吉田 憲司 国立民族学博物館助手  
庄司 博史 国立民族学博物館助手  
塚田 誠之 国立民族学博物館助手  
朝倉 敏夫 国立民族学博物館助手  
林 行夫 国立民族学博物館助手  
糸金則由紀 国立民族学博物館管理部庶  
務課長  
吉岡 淳 (社)日本ユネスコ協会連盟  
広報事業部長  
木田 良次 国立民族学博物館管理部庶  
務課共同利用係長

## 参加者

加藤 九祚 国立民族学博物館名誉教授  
杉村 棟 国立民族学博物館教授  
杉山 二郎 長岡技術科学大学教授  
長澤 和俊 早稲田大学教授  
林 良一 元筑波大学教授  
東山 健吾 成城大学教授  
樋口 隆康 泉屋博古館館長  
藤井 知昭 国立民族学博物館教授  
増田 精一 東京家政学院大学教授  
護 雅夫 日本大学教授  
Shirin AKINER ロンドン大学東洋アフ  
リカ学院中近東学科講  
師(連合王国)  
Muhammad Mudhaffar AL-ADHAMI ア  
ル・ムスタンシリーヤ  
大学教育学部副学部長  
(イラク)  
Ahmad Hasan DANI 中央アジア文明研  
究センター所長(パキ  
スタン)  
Luigi DE ROSA ナポリ海洋大学運輸経  
済・国際貿易学部長  
(イタリア)  
Nejat DIYARBEKIRLI ミマル・シナン  
大学トルコ美術史研究  
所長(トルコ)  
Hassan EL-BASHA カイロ大学考古学部  
イスラム考古学科教授  
(エジプト)

Vadime ELISSEEFF	フランス美術館・ 博物館局名誉総監（フ ランス）	題] 藤枝 晃
Ambassadeur Musa Bin Jaafar Bin HASSAN	ユネスコ常駐代表（オ マン）	16:20 「古代“ステップ・ルート”上の 文化交流 —Pazyryk 期文化の諸問題—」 加藤 九祚
Roland P. JAYEWARDENE	ユネスコ 国内委員会副会長、資 源・エネルギー・科学 庁長官（スリランカ）	10月25日(火)
A. D. LAPIAN	インドネシア国立科学 院社会文化研究部長 （インドネシア）	セッション1（座長：長澤 和俊）
林海 邨	文化省古文書研究所学 （中国）	9:30 「現代におけるシルクロードの意 義：シルクロード歴史地図に関す る提言」 シリーン・アキナー
Sumitr PITIPHAT	タマサート大学社会 人類学部長（タイ）	9:50 「人類文明におけるシルクロード の意義—その文化的側面—」 アハマド・ハサン・ダニ
Rostislav RYBAKOV	ソ連科学アカデミ —東洋学研究所副所長 （ソ連）	10:10 「シルクロードは輸入品文化」 樋口 隆康
Akbar Mokhtar TADJVIDI	シャヒード ・ベヘシュティ大学教 授（イラン）	10:30 「長安からローマへ：仏教文化の 変容」 杉山 二郎
Bal Krishen THAPAR	文化財資源研修 センター議長、インド 芸術文化遺産ナショナ ルトラスト事務長（イ ンド）	11:10 討論
日程		セッション2（座長：増田 精一）
10月21日(金)	国外参加者 奈良見学（なら・シルクロード博・正倉 院展）	13:20 「日本におけるシルク・ロード研 究の発達と現状」 長澤 和俊
10月23日(日)	国内参加者合流 登録 （セミナー） 国立民族学博物館（講堂）	13:40 「トカラ（吐火羅）人—絹の道開 拓の先駆者」 林海 邨
10月24日(月)	9:30 国立民族学博物館見学	14:00 「古代絹の道におけるインド」 バル・クリシェン・ターバル
	13:00 開会式（進行 杉村 棟） 開会のことば 服部 英二 挨拶 フェデリコ・マヨール 梅棹 忠夫 栗野 鳳 三笠宮崇仁親王（来賓代表）	14:20 「絹の道の歴史においてトルコ系 諸族が果たした文化・通商上の役 割」 ネジャト・ディヤルベキルリ
	13:30 参加者紹介	14:40 討論
	13:50 公開講演 「シルクロード：過去と未来」 ヴァジム・エリセーエフ	15:30 日本庭園見学
	14:40 「人類文明におけるシルクロード の意義」 ロスティスラフ・ルィバコフ	10月26日(水)
	15:30 「古代“絹の道”研究の現状と課 題」	セッション3（座長：東山 健吾）
		9:30 「タイ北西部山地民族のシルク ロード古代交易とのかかわり」 スミット・ピティパット
		9:50 「唐朝動物文における肢体装飾文」 林 良一
		10:10 「シルクロードによるペルシャと 中国の美術の交流」 アクベル・モホタル・タジュヴィ ディ
		10:30 「マムルーク朝の工芸に与えた中 国の影響」ハッサン・エル・バー シャ
		11:10 「シルクロードの音楽—古代と現

代の対比—」  
藤井 知昭  
11:30 討論  
14:00 総括 長澤和俊, 増田精一, 東山健吾, ヴァジム・エリセーエフ  
15:00 閉会式(進行 杉村 棟)  
挨拶 佐々木高明(組織委員)  
ドゥードゥー・ディエンス  
(ユネスコ・シルクロード総合研究計画議長)  
参加者代表  
15:15 共同記者会見

◎「危機にたつ狩猟採集民—Foragers in the Contemporary World—」

期間 昭和63年11月20日(日)~27日(日)  
場所 国立民族学博物館  
摘要 今回のシンポジウムでは、現代文明が狩猟採集民の文化にいかなる混乱と変容をもたらしているかを多角的かつ実証的に分析する。シンポジウムは二部構成で、第一部ではオーストラリア・アボリジニ社会の変容を中心に討論する。さらに第二部ではアジア、アフリカ、北アメリカの狩猟採集民社会との比較・分析がおこなわれる。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

竹村 卓二 国立民族学博物館第一研究部長

佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長

杉本 尚次 国立民族学博物館第三研究部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究部長

藤井 知昭 国立民族学博物館第五研究部長

和田 浩司 国立民族学博物館管理部長

実行委員会

委員長

松山 利夫 国立民族学博物館第一研究部助教授

委員

小山 修三 国立民族学博物館第四研究部助教授

中山 和芳 国立民族学博物館第四研究部助教授

林 行夫 国立民族学博物館第四研究部助手

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究部助手

糸金則由紀 国立民族学博物館庶務課長  
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務理事

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団事業部長

参加者

国外

Alberto Gomes マラヤ大学(マレーシア)

Bion Griffin ハワイ大学(U.S.A)

Harvey Feit マクスター大学(カナダ)

Jon Altman オーストラリア国立大学(オーストラリア)

Nicolas Peterson オーストラリア国立大学(オーストラリア)

Stephen Langdon アラスカ大学(U.S.A.)

国内

田中 二郎 京都大学アフリカ地域研究センター教授

市川 光雄 京都大学アフリカ地域研究センター助教授

小山 修三 国立民族学博物館助教授

窪田 幸子 大阪外国語大学講師

松山 利夫 国立民族学博物館助教授

日程

11月20日(日)(千里阪急ホテル)

17:00 登録

11月21日(月)(国立民族学博物館)

10:00 開会式

キーノートスピーチ

座長: 小山 修三

「シンポジウムの主旨とその理論的枠組み」

松山 利夫・Nicolas Peterson  
テクニカルノート

13:00 <第一セッション>

座長: Nicolas Peterson

報告1 小山 修三

Aboriginal Responces in Economic Activites of Arts and Crafts Industry in Central Australia

15:30 座長: Alberto Gomes

報告2 窪田 幸子

Aboriginal Adaptation to the Cash Economy and Group Orgnization of Women on Elcho Island

- 11月22日(火) (国立民族学博物館)  
 10:00 座長：小山 修三  
 報告3 松山 利夫  
 Sharing and Property among the  
 Djinang of Arnhem Land  
 15:30 座長：小山 修三  
 報告4 Nicolas Peterson  
 In Secular Assimilation Possible?  
 Cash, Commoditisation and the  
 Perpetuation of Aboriginal So-  
 ciety and Culture

- 11月23日(水) (国立民族学博物館)  
 10:00 <第2セッション>  
 座長：松山 利夫  
 報告1 市川 光雄  
 The Impact of Commoditisation  
 on the Life of the Mbuti Hunter-  
 Gatherers, Eastern Zaire  
 13:00 座長：松山 利夫  
 報告2 田中 二郎  
 Cash and Commoditisation of the  
 Contemporary Kung Society  
 15:30 座長：Bion Griffin  
 報告3 Alberto Gomes  
 Commoditisation, Petty Commo-  
 dity Production and Social  
 Relations among the Semai of  
 Malaysia

11月24日(木) 京都ツアー

- 11月25日(金) (国立民族学博物館)  
 10:00 座長：Stephen langdon  
 報告4 Bion Griffin  
 Philippine Agta Forager-Serfs:  
 Commodities and Exploitation  
 13:00 座長：Nicolas Peterson  
 報告5 Harvey Feit  
 Gifts of the Land: Hunting  
 Territories, Guaranteed Incomes,  
 Wages and the Construction of  
 Social Relations in James Bay  
 Cree Society

- 11月26日(土) (国立民族学博物館)  
 10:00 座長：Alberto Gomes  
 報告6 Stephen Langdon  
 The Integration of Cash and  
 Subsistence in Southwest Alaskan  
 Yup'ik Eskimo Communities  
 13:00 <エキストラ・セッション>  
 座長：Harvey Feit  
 A Brief Report on Field Research

in the Ewengkiis  
 黒田信一郎・佐々木史郎

- 15:00 座長：松山利夫・Nicolas Peterson  
 総合討論

11月27日(日) (国立民族学博物館)

- 10:00 ワークショップ  
 11:30 解散

◎「現代日本文化における伝統と変容」  
 ー日本人にとっての外国ー

期間 昭和63年12月21日(水)～23日(金)

場所 国立民族学博物館

概要 国立民族学博物館の特別研究「現代日  
 本における伝統と変容」は昭和58年春  
 以来、毎年1回、都合6回のシンポジ  
 ウムを開催してきた。

今回は、「日本人にとっての外国」  
 をテーマに、日本人の異文化接触の場  
 面、異文化情報の現代的役割、外か  
 らの視点などをとおして、日本人の外  
 国、外国人とのかかわり方の伝統と変  
 容とその未来像について討論する。

シンポジウム委員会

委員長

小山 修三 国立民族学博物館第四研究  
 部

事務局

泉 幽香 国立民族学博物館第五研究  
 部

利光 有紀 国立民族学博物館第一研究  
 部

吉田 憲司 国立民族学博物館第二研究  
 部

木田 良次 国立民族学博物館管理部庶  
 務課共同利用係

久野美都子 「伝統と変容」事務局

報告者

石森 秀三 国立民族学博物館

上野千鶴子 平安女学院短期大学

大曾美恵子 関西外国語大学

小野 耕世 東京大学

小山 修三 国立民族学博物館

櫻井 哲男 国立民族学博物館

徐 朝龍 京都大学

杉田 繁治 国立民族学博物館

園田 英弘 国際日本文化研究センター

高田 公理 愛知学泉女子短期大学

野元 菊雄 国立国語研究所

端 信行 国立民族学博物館



星野 命 国際基督教大学  
 ラドル・K 国立民族学博物館

討論参加者  
 井上 忠司 甲南大学（民博客員）  
 梅棹 忠夫 国立民族学博物館  
 白幡洋三郎 国際日本文化研究センター  
 祖父江孝男 放送大学  
 竹村 卓二 国立民族学博物館  
 鄭 暎恵 広島修道大学  
 中牧 弘允 国立民族学博物館  
 守屋 毅 国立民族学博物館  
 米山 俊直 京都大学

日程

12月21日(水)

10:00 受付  
 (司会 竹村 卓二)

10:30 あいさつ 梅棹 忠夫

11:30 問題提起：外国人と日本人  
 小山 修三

<体験>  
 (司会 小山 修三)

13:15 留学：文明摂取のための運動  
 園田 英弘

15:15 国際化の諸相—高度成長と外国人—  
 端 信行  
 (司会 杉田 繁治)

15:30 日本人庶民の海外体験とその諸類

型 高田 公理  
 17:30 海外観光旅行 石森 秀三

12月22日(木)

(司会 井上 忠司)

10:00 子供の異文化接触 星野 命

12:00 性差別の逆説—海外適応と性差—  
 上野千鶴子

<情報>  
 (司会 端 信行)

13:15 日本語を学ぶ外国人と日本語  
 大曾美恵子

15:15 国際化と日本語 野元 菊雄  
 (司会 守屋 毅)

15:30 マングのなかから海外へ  
 小野 耕世

17:30 外国の音楽 櫻井 哲男

12月23日(金) <視点>

(司会 中牧 弘允)

10:00 外国人の日本人観  
 一日本人は差別主義者か—  
 K・ラドル

12:00 中国人の対日感情の底流の一端  
 徐 朝龍

(司会 小山 修三)

13:15 討論 I 導論 杉田 繁治  
 —文化接触による  
 変容のモデル論的考察—

15:15 討論 II 総括

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
中牧 弘允	助教授(第一研究部)	63.10.6	63.10.17	カナダ, アメリカ合衆国
栗田 靖之	助教授(第二研究部)	63.10.6	63.10.7	中華人民共和国
友枝 啓泰	教授(第四研究部)	63.10.12	63.11.14	ペルー, アメリカ合衆国
藤井 龍彦	助教授(第四研究部)	63.10.12	63.11.18	ペルー
佐々木史郎	助手(第一研究部)	63.10.13	63.11.1	ソビエト連邦
石毛 直道	教授(第四研究部)	63.10.15	63.10.19	大韓民国
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	63.10.17	63.10.24	タイ
佐々木高明	教授(第二研究部)	63.10.19	63.10.24	タイ
藤井 知昭	教授(第五研究部)	63.10.29	63.11.13	中華人民共和国
福井 勝義	助教授(第三研究部)	63.11.7	63.11.20	インド
竹村 卓二	教授(第一研究部)	63.11.14	63.12.17	中華人民共和国, 香港
塚田 誠之	助手(第三研究部)	63.11.14	63.12.17	中華人民共和国, 香港
長野 泰彦	助教授(第一研究部)	63.11.23	1.1.23	中華人民共和国, ネパール, インド, バングラデシュ
吉本 忍	助手(第二研究部)	63.11.30	1.1.20	インドネシア
栗田 靖之	助教授(第二研究部)	63.12.11	64.1.1	インド
松山 利夫	助教授(第一研究部)	63.12.12	1.2.10	オーストラリア
福井 勝義	助教授(第三研究部)	63.12.12	1.2.16	エチオピア, スーダン, ケニア

来館者抄

- 10月3日 劉 魁 立 (中国, 中国社会科学院少数民族文学研究所所長), 鄧 敏 文 (中国, 同所研究室主任), 関 紀 新 (中国, 同所副所長), 謝 莉 莉 (中国, 中国社会科学院外事局幹部)
- 10月5日 De COSSE BRISSAC (フランス共和国, フランス外務省科学技術セクション人文科学副部長)
- 10月7日 敦煌研究院文化財環境科学訪日考察団一行  
 団長 樊 錦 詩 (敦煌研究院副院長副研究員)  
 孫 儒 儻 (敦煌研究院保護研究所所長研究員)  
 何 毅 (蘭州化工研究院高級工程師)  
 唐 王 民 (蘭州化工研究院工程師)  
 梁 一 凡 (甘肅省科学技術委員会工程師)  
 (通訳) 劉 永 增 (東京芸術大学客員研究員)  
 George Richard ELLIS (アメリカ合衆国, ホノルル美術館長)
- 10月14日 マフムード・ハレイターニ (シリア国・アレppo民族歴史博物館館長)
- 10月15日 Benedicto Ferri de BARROS (ブラジル, サンパウロ総合大学客員教授)
- 10月18日 かながわ国際こども館・平和館 (仮称) 専門部会委員一行  
 品田和子 (こども館専門部会委員・科学技術館学芸員)  
 広崎芳次 (こども館専門部会委員, 野生水族繁殖センター取締役)  
 長屋龍人 (平和館専門部会委員, NHK スペシャル番組チーフプロデューサー)  
 星野昌子 (平和館専門部会委員, 日本国際ボランティアセンター事務局長)  
 島津直美 (神奈川県渉外部国際交流課副主幹)  
 田辺純夫 (神奈川県渉外部国際交流課主査)

- 10月20日 Kyllikki RUOKONEN (フィンランド, ヘルシンキ大学図書館学専攻)  
 Serge BAHUCHET (フランス共和国, フランス科学院主任研究員)
- 10月21日 Ulla WAGNER (スウェーデン, スウェーデン民族学博物館館長),  
 Anne MURAY (スウェーデン, 同博物館副館長)
- 10月24日 ポーランド青年文化人グループ  
 KOZINSKI, ROBERT (閣僚会議府首相アドバイザー・経済 (団長格))  
 WOJCIK, JAROSLAW (「JTD」カメラマン・写真)  
 JORDECKA, BARBARA (小学校教員・美術)  
 SZCZEPANSKA-DABROWSKA, ELZBIETA (文化芸術省渉外部アドバイザー・言語学)  
 DODZINSKA, BEATA (ジャーナリスト・英語)  
 WOJCICKA-BARTLOMEJCZYK, BARBARA (医者・医学)  
 BLASZCZAK, DOROTA (シヨパン音楽院学生・音響装置)  
 BEJ-BELKOWSKA, IRENA (テレビ局記者・社会問題)  
 MIKUC-SOBOCINSKA, HANNA (女優・映画・演劇)  
 KORYNCKA-GRUZ, NATALIA (映画監督・映画)  
 Francine FARR (アメリカ合衆国, ニューヨーク, ブルックリン博物館学芸員)  
 三笠宮殿下
- 10月25日 Ladda RUNGVISAI (タイ・チェンマイ大学人文学部助教授)
- 10月27日 Euro BRANDAO (ブラジル・パラナ・カトリック大学長) 夫妻  
 昭和63年度研修情報処理要員養成 (シニアプログラマA) コース研修員一行  
 Manuel Horacio Olalde (ア

- ルゼンティン エントレ・リオス州、経済省コンピュータセンター、シニアプログラマー)
- Adriana Lidia Grenon (アルゼンティン サンタフェ州、経済財務省税務局、シニアプログラマー)
- Shi, Xiangzeng (中国 地質・鉱物資源省コンピュータセンター、プログラマー)
- Yasser Farghaly Bakr (エジプト エジプト中央行政庁、プログラマー)
- Dinarno, Nano (インドネシア 工業省データ処理センター、プログラマー)
- Afaf Francies Zari (イラク 建設工業公社、プログラマー)
- Jamila Alkhafagy (イラク 工業・鉱物資源省、プログラマー、アナリスト)
- Eliphaz J. M. M'Ruiga (ケニヤ 大蔵省、システムアナリスト、プログラマー)
- Thangavelu A. L. Ramen (マレーシア 調達庁、プログラマー)
- Mohd, Yusof Almad (マレーシア 国立コンピュータ研修センター、シニアプログラマー)
- Foster Flaxon Ntaila (マラウイ 大蔵省データ処理部、シニアプログラマー)
- Raad I.S. Al-Mudaihem (サウディアラビア 経済財務省、シニアプログラマー)
- Dona Innocenta J. Weddikarra (スリランカ 文部省コンピュータ・情報技術審議会、プログラマー)
- Pornsiri Sinsawasdi (タイ 国立統計局情報処理部、シニアプログラマー)
- Mustapha Bekri (チュニジア チュニス大学物理学科、講師)
- Decio PIGNATARI (ブラジル・サンパウロ大学建築都市計画学部教授)
- 10月28日 Arther KOMBERS (アメリカ 合衆国、スタンフォード大学教授)
- 10月29日 N. W. H. MACLEOD (香港通商産業長官)
- 10月30日 ベルナール・ドラン (在本邦フランス大使)、ルネ・ベル (在大阪神戸フランス総領事)
- 11月2日 謝 肇 華 (中国、遼寧社会科学院副院長)、張 玉 興 (中国、同院歴史研究所副研究員)、王 桂 良 (中国、同院歴史研究所副研究員)
- 11月8日 Marcelo GUILLEN (ヴェネズエラ、シモン・ボリバル大学学長)
- 11月10日 中国幼児師範教育訪日団一行  
団長 顧 明 遠 (中国教育国際交流協会理事・北京師範大学副学長、世界比較教育連合会副)  
副団長 潘 仲 茗 (中央教育科学研究所副所長、副研究員、副編審)  
団員 蔣 孟 平 (南京師範大学副学長)  
鄧 密 姝 (西南師範大学学前教育学部副教授)  
徐 秀 嫦 (雲南師範大学学前教育教研室主任、副教授)  
曹 魁 珍 (吉林省小学校・幼児教師培訓センター主任、高級講師)  
閻 水 金 (華東師範大学教育学部講師)  
胡 志 平 (中国教育国際交流協会日本担当)
- 11月11日 中国民間文芸家協会上海代表団  
姜 彬 (華東大学教授)、任 嘉 禾 (民間文芸家協会上海分会主任)、王 文 華 (同会上海分会副主任)、陳 健 (華東大学助教授)
- 11月15日 鄧 銳 齡 (中国、中国社会科学院民族研究所教授) 夫妻、照那斯圖 (中国、社会科学院民族研究所長)
- 11月17日 東南アジア青年招聘計画被招聘者一行

- Yeow Chin Wee  
Lee Fook Chiew  
Lim Eng Lee  
Lee Siew Fye  
Lim Su Sin  
Jayader s/o K.N. Unnithan
- 11月18日 李 海 龍 (大韓民国, 韓国文化芸術振興院文化事業部長),  
張 貢 秀 (大韓民国同院総務部),  
趙 錫 洪 (大韓民国, 同院企劃部),  
盧 在 星 (大韓民国, 同院調査研究部)
- 11月21日 Jean Aime RAKOTOARISOA (マダガスカル, マダガスカル大学考古学博物館長)  
昭和63年度集団研修情報処理要員養成(システムエンジニアB)コース研修員一行  
Carlos Eduardo Aleixo Correia (ブラジル, 運輸省, 海運基金, システム・アナリスト)  
Nelio Antonio Vieira (ブラジル, ミナス鋼鉄会社, コーディネータ)  
Alejandro Carlos Tapia Haarmann (チリ, 国立企画院, 企画部, システム管理主任)  
梁 宇 寧 (中国, 広東省科学技術委員会, エンジニア)  
Ossama Mohamed Abdelaziz (エジプト, 開発省, 情報センター, システム・デザイナー)  
Djoned Adhi Sardjito (インドネシア, 農業省, 作物保護局, 発生予察センター職員)  
Marsiner Jarmin (マレーシア, 総理府, 首相第一私設秘書, 上級システム・アナリスト)  
Pedro Jesus Torres Vega (ペルー, リマ大学数学及びコンピュータ・システム部, 助教授)  
Elizabeth Y. Baltar (フィリピン, 交通通信省, 電気通信局コンピュータ・システム課, システム・アナリスト)  
Chia Chian Hong (シンガポ
- ール 日・ソフトウェア技術研修センター講師)  
Ng, Song Heng (シンガポール 日・ソフトウェア技術研修センター講師)  
Panist Vanichanon (タイ 公衆衛生省, 医療科学局, プログラマ)  
Phanee Thirangoon (タイ コンケン大学, コンピュータ・センター講師)
- 中国広州青年報道関係者代表团一行  
団長 黄 浩 (広東省宣伝部部長)  
副団長 薫 秀 萍 (広東省人民政府外事弁公室領事処副処長)  
団員 王 春 英 (広東省新聞工作者協会理事)  
潘 雄 男 (羊城晚報社新聞編集室副主任)  
丁 小 莉 (南方日報社記者)  
伊 可 迹 (広東人民ラジオテレビ局記者)  
陳 義 威 (広東テレビ局編集)  
鄭 景 廉 (広州日報社工交部副主任, 記者)  
傅 建 国 (深圳特区報社記者)  
王 振 昌 (広東省人民政府外事弁公室外事刊行物編集)
- 11月25日 岩下 健吾 (国立歴史民俗博物館会計課管理係長),  
佐藤 満男 (同館施設課設備係長),  
新妻 一三 (同館資料課情報処理係長)
- 11月28日 国際協力事業団公衆衛生技術者コース研修員一行  
Lucy Sidhom Issac (エジプト 厚生省中央衛生研究所食品細菌学担当官)  
Soad Morsy Hamouda (エジプト 厚生省中央衛生研究所水質専門官)  
Achmad Isfarain (インドネシア 厚生省疾病昆虫部病原菌媒体抑制課課長)  
Salome R. Palsimon (フィリピン 厚生省ルソン地域中央病院医療技術官)

- Hansa Chaivanit (タイ, 厚生省医療局毒物課医療科学官)
- 12月2日 曹仲賢 (中国, 上海大学副学長)
- 任意 (中国, 上海大学美术学院副院長)
- 楊艾強 (中国, 上海大学美术学院美術デザイン学科副主任)
- 何文瑩 (中国, 上海大学美术学院日本語教師)
- 12月5日 特布信 (中国, 内蒙古大学教授)
- 12月6日 Teuku Ibrahim ALFIAN (インドネシア, ガジャマダ大学文学部長)
- 12月10日 昭和63年度視聴覚技術 (専修) 研修員一行
- Juan Carlos Esposito (アルゼンチン, ラジオ教育番組テレビ番組アナウンサー技術遠隔教育学校)
- Christian Spangler (ブラジル, SENAI 国立工業訓練所視聴覚部門主任)
- Nader Asaad Reyad (エジプト, 農業省米作機械化センター 電気課 エンジニア)
- Alexander Thomas Lumanauw (インドネシア, 公共事業省定住促進事業所 出版図書資料 係長)
- Johnson Ripson Barasa (ケニア, 教育省ケニア教育研究所 シニア技術オペレータ)
- Arif Bin Yahya (マレーシア, 情報省マレーシア国営TV放送局技術プロデューサー 録音担当)
- Silvia Antonia Del Socorro Martinez Espinosa (メキシコ, メキシコ市 都市再生生態保全総局 広報室長)
- Juanito Relova Hernandez, Jr. (フィリピン, 国家経済開発庁 開発情報部 経済情報専門官)
- Maria Victoria Santos Gaba (フィリピン, 国家人口委員会 人口調査監督補佐官 IEC 担当)
- LIM Siew Gek (シンガポール, シンガポールカリキュラム開発研究所教育工学部メディアプロデューサー)
- Vanpen Suksila (タイ 農業共同組合省 次官室 農業情報課 普及啓発係 情報官)
- 12月12日 中国江蘇省小城镇研究会代表团一行
- 団長 徐福基 (江蘇省社会学学会会長, 江蘇省小城镇研究会顧問)
- 顧問 顧介康 (江蘇省經濟研究室副主任)
- 趙傑 (江蘇省哲学社会科学連合会秘書長)
- 張渭英 (江蘇人民出版社副総編集)
- 胡玉成 (江蘇省蘇州市經濟研究室副主任)
- 団員兼通訳 朱智貴 (江蘇省外事弁公室科長)
- 12月13日 高木義紀 (国立歴史民俗博物館 庶務課長)
- 12月18日 Baron VAEA (トンガ王国, トンガ王国労働・商業・産業大臣 南太平洋フォーラム議長)
- 12月19日 Choi LUBSANJAB (モンゴル人民共和国, モンゴル国立大学 外国語学科長)
- 12月22日 André BURGUIÈRE (フランス共和国, フランス社会科学高等研究所教授)
- 12月26日 喬健 (香港, 香港中文大学 人類学系主任教授) 夫妻

国立民族学博物館研究報告 13巻 総目次

13巻1号

山下 晋司：国家的過程のなかの民族文化 ——インドネシア、トラジャにおける伝統的文化の現代的位相——	1
小山 修三：オーストラリア・アボリジニ社会再編成の人口論的考察	37
古谷 嘉章：クーラとタンボール——北部ブラジルの憑霊カルトにおける成巫過程——	69
秋道 智彌：航海術と海の生物——ミクロネシアの航海術における Pwukof の知識——	127

13巻2号

杉島 敬志：舞台装置としての家屋 ——東インドネシアにおける家屋のシンボリズムに関する一考察——	183
高谷 紀夫：祭祀と地域性——ビルマ・ランゲーン研究から——	221
深澤 秀夫：遍在する邪術、見えない邪術 ——北部マダガスカル ツィミヘティ族社会における ある邪術告発についての一考察——	253
渡辺 仁：北太平洋沿岸文化圏——狩猟採集民からの視点 I——	297
斎藤 晨二：「ヤクートと家畜」の原像を求めて——オロンホを読む——	357
石毛 直道：魚醬とナレズシの名称——魚の発酵製品の研究 (7)——	383
崎山 理	
松山 利夫：アーネムランド・アボリジニ、ジナン族の星まつり ——国立民族学博物館海外映像音響資料収集の記録——	407

13巻3号

田中 雅一：カーリー女神の変貌——スリランカ・タミル漁村における村落祭祀の研究——	445
足立 明：シンハラ農村の労働交換体系	517
和田 正平：トーゴ北部諸族の技術誌をめぐる諸問題——パレオニグリティックを中心に——	583
林 隆夫：方陣の歴史——16世紀以前に関する基礎研究——	615

13巻4号

大林 太良：夸父と造父——構造分析の試み——	727
朝倉 敏夫：韓国祖先祭祀の変化——都市アパート団地居住者を中心に——	741
櫻井 哲男：済州島における歌の形成——音から音楽へ——	787
松園万亀雄：子の監護と婚資返却——グシイにおける離婚訴訟の分析——	807
竹沢尚一郎：「水の精霊」とイスラム——ボゾ族における社会変化と宗教変化——	857
Michael L. Sherard: Preliminary Remarks on the Phonological Implications of Word Play in Modern Shanghai	897

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。



Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-  
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-  
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 13巻4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編 集 委 員〕

朝 倉 敏 夫

片 倉 素 子

小 山 修 三

ケネス・ラドル

崎 山 理 生

周 達 生

田 邊 繁 治

垂 水 稔 芳

中 山 和 彦

長 野 泰 勝

宮 本 憲 司

吉 田 憲 司

和 田 正 平

---

平成元年3月29日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 13巻4号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園10-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.13 no.4  
1988

- OBAYASHI, Taryo**      **Kuafu and Zaofu: Essay in the Structural Analysis of Ancient Chinese Myths**
- ASAKURA, Toshio**      **Changes in Korean Ancestor Rites: A Social Survey of the Middle Class in City Apartments**
- SAKURAI, Tetsuo**      **Formation of Songs in Cheju Island: From Sound to Music**
- MATSUZONO, Makio**      **Custody of Children and Bridewealth Repayment: An Analysis of Gusii Divorce Cases**
- TAKEZAWA, Shouichiro**      ***Jii tu* and Islam: Socioeconomic and Religious Changes among the Bozo**
- SHERARD, Michael L.**      **Preliminary Remarks on the Phonological Implications of Word Play in Modern Shanghai**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X